

# 第1・2年 算数科学習指導案

令和7年6月20日（金）5校時  
1年生1人，2年生2人 計3人  
指 導 者

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 単元名 のこりはいくつ ちがいはいくつ（1年）<br/>小単元 ちがいはいくつ</p> <p>2 単元について<br/>（1） 児童の実態 （調査人数 1人）</p> | <p>1 単元名 1000までの数（2年）<br/>小単元 10のまとまり</p> <p>2 単元について<br/>（1） 児童の実態 （調査人数 2人）</p> |
|--|---|

【主体的な学びに関する実態調査】令和7年5月16日実施：質問紙法 1年 1人 2年 2人					
質問項目	学年	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
① 問いや解決したいことなどを考えて、めあてを立てているか。	1年	1	0	0	0
	2年	2	0	0	0
② めあてを解決するために、見通しをもって学習に取り組んでいるか。	1年	1	0	0	0
	2年	1	1	0	0
③ 自分にあった学習の方法を選んで学習に取り組んでいるか。	1年	1	0	0	0
	2年	2	0	0	0
④ どのように学習するのが好きか。 （複数回答あり）		グループやペアで話し合いながら（2人）	友達といっしょに考える（2人）	教師に教えてもらう（1人）	練習問題を進める（1人）
⑤ 自分の考えをもって、学び合い（話し合い）に参加しているか。	1年	1	0	0	0
	2年	1	1	0	0
⑥ 友達と話し合ったり、教え合ったりすると、分かりやすいか。	1年	1	0	0	0
	2年	1	1	0	0
⑦ 振り返りで学んだことや、今後に生かせそうなことを考えているか。	1年	1	0	0	0
	2年	1	0	1	0

質問項目①②から、問いや解決したいことなどを考えて、めあてを立てたり、見通しをもって学習したりしている様子が伺える。ガイド学習に不慣れな部分もあり、時間がかかることもあるが、相談しながら課題設定をしたり、解決に向けた話し合いを進んで行ったりしている。質問項目④⑤⑥から、友達と一緒に考えたり、話し合ったりする活動に関心をもっており、学び合いの中で、さらに自己の考えを広げた経験もしている。質問項目⑦からは、振り返りの時間の確保や充実への課題が見られる。ラスト10分を確保したり話し合い活動の時間を充実させたりするために、反転学習や異学年での振り返りをして交流する活動を意図的に取り入れていきたい。

【本単元の内容に関する実態】評価問題及びレディネステストによる実態把握	
1年 1人	2年 2人
・ 10までの数の概念、合成・分解、集合数と順序数についてよく理解している。 正答率100%	・ 繰り上がり・繰り下がりのない何十同士の加法と減法について、よく理解している。平均正答率91%
・ 和が10までの加法について、合併・増加の意味や式の表し方について理解し、加法の計算ができる。 正答率100%	・ 120までの数の構成について、よく理解している。 平均正答率93%

両学年共に前単元までの学習内容をよく理解しているが、少人数においても対話活動や他者参照を行える

よう異学年交流の場を設定したり、学年ごとのキャラクターを登場させたりする。

(2) 本単元について

本単元では、減法の計算についてその意味を理解すること、生活や学習の中で活用できるようになることをねらいとしている。本時は、減法の中でも2つの数量の差を求める「求差」であり、児童がつまずきやすい箇所でもある。2つの数量の大小関係を判断し、減法の場面への構造に結びつける2段階思考を必要とする。どれだけ多いかや、少ない方の数を求めるなどの場面でも、具体物を操作したり、言葉や図、式を用いたりする活動を通して「ちがいは」という見方もできるようにしていきたい。さらに、「ちがいは」もやはり、減法が適用されることを確認する。「操作、言葉、図、式」のそれぞれを結びつける一連の活動を繰り返すことが重要となる。差を求める場合には、問い方が多様にあるので、問い方に適合した答え方ができるよう指導していく。

3 単元目標

- ア 減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。 [A(2)ア(ア)]
- イ 減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 [A(2)ア(イ)]
- ウ 1位数と1位数の加法の逆の減法の計算が確実にできること。 [A(2)ア(ウ)]
- エ 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。 [A(2)イ(ア)]

4 本時 (6 / 12)

(1) 目標

- ア 求差の場面でも減法の式に表せることを理解する。
- イ 求残と求差で場面は異なっても、同じように減法の式に表すよさを感じている。

(2) 本単元について

本単元では、3位数までの数について、数の概念や性質についての理解を深めるとともに、乗法的な見方や数の用いられ方についても指導し、数を用いる能力を伸ばし、数についての感覚を豊かにすることをねらいとしている。本時では、それまでの100や10を単位として3位数を相対的な大きさをもとに考える活動を活用していく。10のまとまりを使って、(何十) + (何十)、(百何十) - (何十)の計算のしかたを考え、計算ができるようにする。その際、10を単位とした計算のしかたを考えるだけでなく、そのよさについて話し合わせることで、数を相対的な大きさで捉えることのよさに気付かせたい。

3 単元目標

- ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。 [A(1)ア(ア)]
- イ 4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。 [A(1)ア(イ)]
- ウ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 [[A(3)ア(ウ)]
- エ 数のまとまりに着目し、大きな数の比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。 [A(3)イ(ア)]

4 本時 (6 / 7)

(1) 目標

- ア 10を単位とした2、3位数の加法や減法の計算ができる。

(2) 指導上の留意点

- 上学年での反転学習や同時終末を意図的に設定することで、学習者主体の学びの実現を目指す。
- 板書の視覚化を図ることで、活動内容や学習の流れなど、解決の見通しがもてるようにする。
- どちらの学年も調べる・深める段階において、互いの考えの相違について話し合う場を設定することで、子供たちが対話的に学べるようにする。

[illegible]